

家庭数	令和5年12月15日 (2023年)
保護者の皆さまへ	千里みらい夢学園 吹田市立桃山台小学校 校長 井波 治男

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

概要 ・平均正答率は、全体として全国値を上回る結果であった。

・読む力を問う問題では、全国値を上回る良好な結果であった。

・記述式の問題では全国値を上回るものの、正答率は低く課題が残る結果であった。

【各領域の成果と課題】

○話すこと・聞くこと

・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える問題（選択式）では、全国値を上回る結果のものと、下回る結果のものがあった。

・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題（記述式）では、全国値を上回る結果であった。

○書くこと

・図表やグラフなどを用いて自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるかどうかをみる問題（記述式）は、全国値を上回る正答率であったが、正答率は低く、課題が残る結果であった。

○読むこと

・目的を意識して、中心となる語や分を見つけて要約することができるかどうかをみる問題、目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかをみる問題（いずれも選択式）では、全国値を上回る結果であった。

・文章を読んで自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題（記述式）では、全国値を大きく上回る結果であった。

○言葉の特徴や使い方に関する事項

・漢字を正しく書く問題においては、全国値を大きく上回る結果であったが、同音異義語を書く問題は、正答率が低い結果となった。

・原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる問題（選択式）では、全国を上回る結果だった。

・情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる問題（選択式）では全国値を上回る結果だった。

●国語科における成果と今後の改善点について

いずれの領域においても全国値を上回り、特に漢字を文の中で正しく使ったり、言葉を正しく使ったりする知識・理解の正答率が高くなっており、知識の定着については一定の成果が見られた。一方、記述式の問題については全国値を上回ってはいるものの正答率は低く、無回答率の高い問題も見られた。引き続き自分の考えをまとめたり友達との考えと比較して考えたりする活動に取り組む必要がある。

●算数《概要》

概要 ・平均正答率は、全体として全国値を上回る結果であった。

・変化と関係の領域では、全国値を上回る良好な結果であった。

・記述式の問題では全国値を上回るものの、正答率は低く課題が残る結果であった。

【各領域の成果と課題】

○「数と計算」

・四則計算についての問題は、いずれも全国値を上回る結果だった。

・2位数÷1位数の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる問題（選択式）では、正答率が全国値を上回っていたが、正答率は低く、課題が残る結果だった。

○「図形」

・図形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題は、いずれの正答率も全国値を上回る結果だった。

・その中で、高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題（記述式）では、全国値を上回るものの、課題が残る結果だった。

○「変化と関係」

・百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題（選択式）の正答率は、全国値を大きく上回る結果だった。

・伴って変わる二つの数量について、表の中の知りたい数を求める問題（短答式）や二つの関係を説明するための表の中の適切な数の組を選ぶ問題（短答式）の正答率は、全国値を上回る結果だった。

○「データの活用」

・示された数から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる問題（短答式）、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかをみる問題（選択式）の正答率は、ともに全国値を上回る結果だった。

・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見出した違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題（記述式）は、全国値を上回る結果だった。

●算数科における成果と今後の改善点

国語同様全体的に全国値を上回る結果であり、知識の定着という部分では日ごろの学習の成果が発揮されたといえる。また、無回答率は全体的に全国値を下回り、問題に対して前向きに答えることができている言える。一方で、求め方や答えを言葉や数を使って説明したり、問題からわかることを言葉や数で説明したりする記述式の問題において、正答率が低い傾向が見られた。授業の中で答えを導く際に、なぜそうなるか性質や考え方を理解し、自分なりにまとめてノート等を書く活動について重点的に取り組んでいく必要がある。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

・朝食を毎日食べる児童の割合、毎日同じ時刻に寝起きをしている児童の割合ともに全国値より高い。

・自分にはよいところがあると答えた児童は全国値を上回っている。将来の夢や目標を持っていると回答した児童が全国値をわずかに下回っており、夢を持っていないと回答した児童の割合は、全国値を上回っている。

・人が困っているときに進んで助けていると回答した児童の割合は、全国値を下回っている。いじめは、どんな理由があってもいけないことだとほとんどの児童が思っている。

・自分と違う意見について考えるのは楽しいと回答した児童の割合は、全国値をわずかに下回っている。

・家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合は、全国値を上回っている。また、学校の授業以外に平日や休日に1日当たりどれくらい勉強するか（学習塾や家庭教師の学習も含む）という問いに、2時間以上と回答した児童の割合は全国値を大きく上回っている

・1日当たりの読書の時間や読書が好きと回答した児童の割合は、全国値を上回っている。また、家にある本の冊数が100冊以上と回答した児童の割合も全国値を大きく上回っている。

・地域行事への参加率は全国値を下回る結果だった。

【教科・学習について】

・5年生までに受けた授業でのICT機器の活用頻度については、全国より少ない結果となった。

・5年生までに受けた授業で、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたかの問いに対し肯定的な回答をした児童は全国値を上回っている。

- ・5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたかどうかを問う質問に対して肯定的な回答をした児童は、全国値を上回っている。
- ・話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることが出来ていると回答した児童は全国値を少し上回る結果であった。
- ・授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていると回答した児童は、全国値を上回っている。
- ・学級において、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童は、全国値を少し上回っている。
- ・国語、算数において授業の内容がよくわかると回答した児童の割合は、全国値を上回っている。また、国語と理科については、授業で学習したことが将来社会に出たときに役に立つと回答した児童の割合は、全国値を少し下回っている。
- ・英語の学習が大切だと回答する児童は、約9割で全国値とほぼ同じであった。これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があったかどうかを問う質問では、肯定的に回答した児童は、全国値を上回る結果だった。

3 今後の取り組み

千里みらい夢学園では、令和2年度より子どもたちが仲間とともに自ら学ぶ力を育成する「知りたい！ 話したい！ 伝えたい！」をテーマに、研究を進めています。昨年度の結果に続き、今回の調査結果からも、子どもたちがただ理解するだけでなく、授業の中で自分の考えを持ち、気持ちや意見を相手に伝えたり、友だちの話や思いを聞いたりする活動を大切にした授業づくりに一定の成果が得られたと考えられます。生活習慣の調査からも、子どもたちが話し合い活動の良さを感じている様子がうかがえます。

生活習慣の調査からはその他にも、学校以外での学習時間や読書量は多く、計画的に学習しているなど、ご家庭での学習環境が整っている様子が見てとれます。また、自分には良いところがある、いじめはどんな理由があってもいけないなどの項目で全国値を上回っていました。

一方で将来の夢や目標を持っていると回答した児童は全国値を下回っています。必ずしも目標に向かって努力しているわけではないが、日々の学習に真面目に取り組んでいる子どもたちの様子が浮かびます。

「子ども同士がつながる」とともに「自ら学ぶ」子どもたちを育てるために、課題を試行錯誤し解決するような「知りたい！ 話したい！ 伝えたい！」授業の研究や、学校生活の様々な場面で、児童が自分たちで考え、話し合い、主体的に取り組む場面の設定に引き続き取り組むとともに、児童一人ひとりにあったきめ細かな指導の工夫改善をより一層進めて参ります。

そして、子どもたちが自分自身を信頼し、将来の目標や夢に向かって進んでいけるよう、家庭・地域と連携して教職員一同努力して参ります。今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

